

特集「スマートコミュニティ実現のための 高度交通システムとモバイル通信」の編集にあたって

齋藤 正史^{1,a)}

スマートコミュニティは、情報通信と交通やエネルギー制御を高度に融合させて効率化した新しい社会インフラであり、現在その実現に向けて高性能な情報通信機器の実用・商用化や、実用をにらんだプロトコルの実証実験など、活発な研究開発が進められている。

高度交通システム分野では、車載システムの高度化、車載機器の無線ネットワーク技術、車載サービス高度化のための高精度位置推定技術、さらには、自動運転を目指す試みなどが多数提案されている。モバイル通信分野においては、運転者や歩行者といったユーザを対象としたアドホックネットワーク技術やセンサネットワーク技術の実用化に向けた研究開発のほか、それらを用いたコンテキストウェアなサービスなどが実用的に提供されはじめており、これらはスマートコミュニティを実現するために不可欠な分野となっている。

高度交通システムおよびモバイル通信に関するテーマに関しては、情報処理学会の高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS) 研究会とモバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL) 研究会が中心となり、これまでに毎年 200 件の優れた論文が研究会で発表されている。また、1997 年から開催されている DICOMO シンポジウムにおいても、2015 年度の 300 件近い発表のうち、本分野に関連する論文は 60 件であり、研究活動の活発さを示している。発表された論文には、研究会やシンポジウムを通じた議論をもとに完成度が高められたものも多く、このような論文を一括掲載することにより、この分野の研究を推進し、その発展に寄与することは情報処理学会として大変意義のあることと考える。

本特集号は、上記の趣旨に基づいて ITS 研究会と MBL 研究会が合同で企画したものであり、2014 年 11 月に論文募集を行い、2015 年 4 月 12 日に締切、4 月 14 日に第 1 回編集委員会、6 月 15 日に第 2 回編集委員会、9 月 24 日に第 3 回編集委員会というスケジュールで編集を進めてきた。今回の投稿件数は 31 件、内英文論文は 9 件であり、最終

的には 15 件の論文 (内英文論文は 3 件) を採録し、最終的な採録率は約 48% と例年並みとなった。

採録された 15 件に関しては、移動体の位置・進行方向・軌跡の推定、車車間通信を含むアドホックネットワーク、自動運転、渋滞緩和など多岐にわたり、この分野の主要研究テーマをカバーしている。また、渋滞解消など社会の課題を実際的に解決する応用の論文も採録され、本特集号の趣旨にふさわしい内容となった。

本特集では奈良先端科学技術大学院大学の荒川豊氏と松田裕貴氏に参加型都市センシングを強化するゲーミフィケーション機構に関するサーベイ論文を執筆していただいた。社会課題解決のために、多数の人が金銭以外のインセンティブにより共同・協調して進めていくための良い論文になっている。

不採録、取下げとなった論文においても、内容的にはすばらしいものが多く、追加検証やブラッシュアップにより十分に採録に足るものが多く見られた。これらの論文についても、再投稿を期待している。

最後に、限られた時間の中で多数の査読を行い、出版に至ることができたのは、編集委員、査読者、学会関係の皆様の大なる協力によるものであり、編集委員長として厚く御礼申し上げる。

「スマートコミュニティ実現のための高度交通システムとモバイル通信」特集号編集委員会

- 編集長
齋藤正史 (金沢工業大学)
- 幹事
木谷友哉 (静岡大学)
- 編集委員
重安哲也 (県立広島大学)、清原良三 (神奈川工科大学)、川股幸博 (日立製作所)、深澤紀子 (鉄道総合技術研究所)、白石 陽 (公立はこだて未来大学)、小花貞夫 (電気通信大学)、重野 寛 (慶應義塾大学)、安本慶一 (奈良先端科学技術大学院大学)、梅津高朗 (滋賀大学)、澤野弘明 (愛知工業大学)、川井 明 (滋賀大

¹ 金沢工業大学
Kanazawa Institute of Technology, Nonoichi, Ishikawa 921-8501, Japan

^{a)} msaito@neptune.kanazawa-it.ac.jp

学), 窪田 歩 (KDDI 研究所), 岩本健嗣 (富山県立大学), 小川将克 (上智大学), 柿崎淑郎 (東京電機大学), 寺岡文男 (慶應義塾大学), 森野博章 (芝浦工業大学), 大和田泰伯 (NICT), 鈴木秀和 (名城大学), 内山 彰 (大阪大学), 山場久昭 (宮崎大学), 乃村能成 (岡山大学)